

「生きている水」

大和郡山市立郡山西中学校 三年

藤森 美花

「見て！とっても綺麗！」
家族で車で移動中に、桜並木が続いている川の横を通った。川の水面には桜が映り、なんともいえない美しい景色が広がっていた。
「本当だね。懐かしいな。お母さんは、このすぐ近くの学校に通っていたのよ。あの頃は、川の中にたくさんゴミが捨てられていて、冷蔵庫や自転車などが捨てられている時もあった。水は濁って汚かったけどな。」
「そうなの？桜のピンク色がわかるほど、水も綺麗だけど：。」
「そういえば、川を綺麗にしようとたくさんの人達が集まって、掃除をしたことがあったな。臭いがあったり、汚いゴミなどが出てきて嫌だったのを思い出したわ。」
話を聞いて、どんなに汚い川だったのか、今の様子からは想像できなかった。その時、

水は、人によって汚されるけれど、人によって綺麗にもなるのだと思った。
私は、大和郡山市に住んでいる。近くでは、ホタルを見ることが出来る。ホタルは、豊かな自然と綺麗な水があると、見ることも出来る。それが出来ないのだから、見ることもできず、本当は嬉しい。水が綺麗だということとなのだから。
お母さんが学生の頃、住んでいた近所の小川でホタルをよく見ていたそうだが、小川近くをコンクリートで埋め立て、家が建ち、それから、ホタルの姿を見ることはなくなつた。このことだった。植物がなくなり、水も汚れてしまったからだ。なんだか胸が痛くなつた。
「水」は、私達人間だけでなく、植物や虫など生きている者にとって大切な物なのだ。

水が汚れてしまうと人間や動物は、飲むことができず生きていくことができない。魚や虫なども、水の中で生きることができなくなってしまう。酸素を作り出し、種類によっては、私達の食物になる植物は、汚れた水では、体に毒のある植物が育ってしまう。食物連鎖の世界に生きている私達は、水を汚すことによつて、自分達の手で、その輪を壊してしまうのである。考えると恐ろしくなった。また、私達によつて、命を奪われたホタルのことを思うと悲しくなった。

しかし、再生した川のことを思い出すと希望を持つことができ、嬉しくなった。変われるのだ。

ゴミはゴミ箱へと当たり前のことができず、川への投げ入れで水を汚し、自然破壊へとつながる流れを断ち切り、工場排水や家庭から出る汚水や油など、しっかりと決められた方法で処理し、水を汚さないように一人一人が気を付けていくことが、大切な命の水を守ることにつながっていくのだと思う。

水は生きている。水を活かすために様々な努力が行われ、化学の進歩により、汚い水を

浄化することができるようになっている。水を綺麗にしようと思うのは、水が大切だとわかつているからだ。

大切に思う気持ちは、水にも伝わっているのではないだろうか。植物を愛情を込めて育てると綺麗な花が咲き、良い実をならすという話と同じなのではと思う。

お母さんの話から、汚かった川が美しく再生したのも、川を綺麗にしようと何度も何度も掃除する熱い心が伝わり、美しく咲く桜を映し出せるほどに輝きたいと命の炎を燃やしたからではないだろうか。

ホタルが住み水も、美しい光を放つ姿を見ることを楽しみにし、綺麗な水を維持するよう努力している私達の気持ちに応え、同じように「ホタルを育てるために綺麗でいよう」と頑張っているように思った。

水も人も動物も植物もみんな生きています。生きていくこと生かされていることに感謝し、もっと美しく住み良い環境を作れるように努力していきたい。